



2015年4月3日、三杉川でスッポン1個体を捕獲。背甲長が20cm以上ある大型の個体だ（雌雄は不明）。科学部カメ班がアカミミガメを採集するため、網で川岸を探っていたところ、片柳くんの網に、偶然、スッポンが入ってしまったのだ。

スッポンは固い甲羅を持たず、背甲は柔らかな皮膚でおおわれている。その形が円に近いため「**月とスッポン**」の言い回しがある。**性格は荒く**、くびが長く伸びてよく噛み付き、その力は非常に強いので、大変危険である。当日、採集に参加した部員4名が網を3つ重ねて動きを封じて、佐高まで運ぶことに成功した。

栃木県版**レッドデータブック**（絶滅が危惧される種について解説した書籍）では、スッポンは「**情報不足**」に分類されている。スッポンはもともと日本の在来種であるが、古くから全国各地で養殖されていたため、**人為的な移植**が多く、栃木県内でもともと生息していたのか（**自然分布**）、養殖個体が逃げ出したものが生息しているのか等、全く不明なのである。

そこで、科学部カメ班では、スッポンの**遺伝子の解析**を行っている九州大学の鈴木先生に依頼し、DNAを調べてもらうことにした。早速、部員たちによって、しっぽの先端5mmくらいの組織が切り取られ、アルコール中に保存された。数ヶ月後には、三杉川に生息する**スッポンの由来**の一端が明らかにされているかもしれない。



スッポン捕獲チーム



しっぽの先端の組織